

### (3) 2017年度「金沢市町会長アンケート調査」報告

眞鍋 知子

#### 1 はじめに

本稿の目的は、2017（平成 29）年に実施した「金沢市町会長アンケート調査」（以下、今回調査）から、町会長<sup>1)</sup>の実態について明らかにすることである。その際に、2006（平成 18）年に実施された「金沢市町会実態調査」（以下、前回調査）の結果と比較することによって、11 年の歳月のあいだに金沢市の町会長像にどのような変化があったのかについて検討する。

なお、本稿の分析は、前回調査をもとに「町内会長の現在」を著した田邊浩の研究成果に準拠しつつ行う。

#### 2 比較する2つの町会長調査の概要

前回調査および今回調査の概要について、表 1 に示す。どちらも回収率は非常に高く、町会長を任される人物の実直さがわかる。

表 1 前回調査と今回調査の概要

	前回調査	今回調査
調査地域	金沢市内全域	金沢市内全域
調査期間	2006（平成 18）年 9 月 6 日～30 日	2017（平成 29）年 7 月 14 日～27 日
調査方法	郵送調査法，調査対象者自記入式	郵送調査法，調査対象者自記入式
調査対象	金沢市内すべての町会長 1,338 名	金沢市内すべての町会長 1,360 名
回収率	90.4%	89.2%
調査実施主体	金沢市・金沢大学文学部社会学研究室（共同研究）	金沢市・金沢大学地域創造学類地域社会学研究室（受託研究）

#### 3 属性からみる町会長

どのような人が町会長を務めているのかについて、基本的属性から明らかにする。

##### 3.1 性別

前回調査では回答があった 1,209 町会のうち女性が町会長を務めるのは 28（2.3%）の町会であった。一方、今回調査で回答があった 1,195 町会のうち女性が町会長を務めるのは 48（4.0%）の町会であり、その割合は微増しているものの、全体に占める女性比率は低い。

### 3.2 年齢

町会長の年齢は、前回調査も今回調査も60歳台が最も多く4割以上を占める。しかし、今回調査では50歳台の割合が減って、70歳台の割合が増加している。このことから、町会長の高齢化が進んでいることがわかる（図1）。

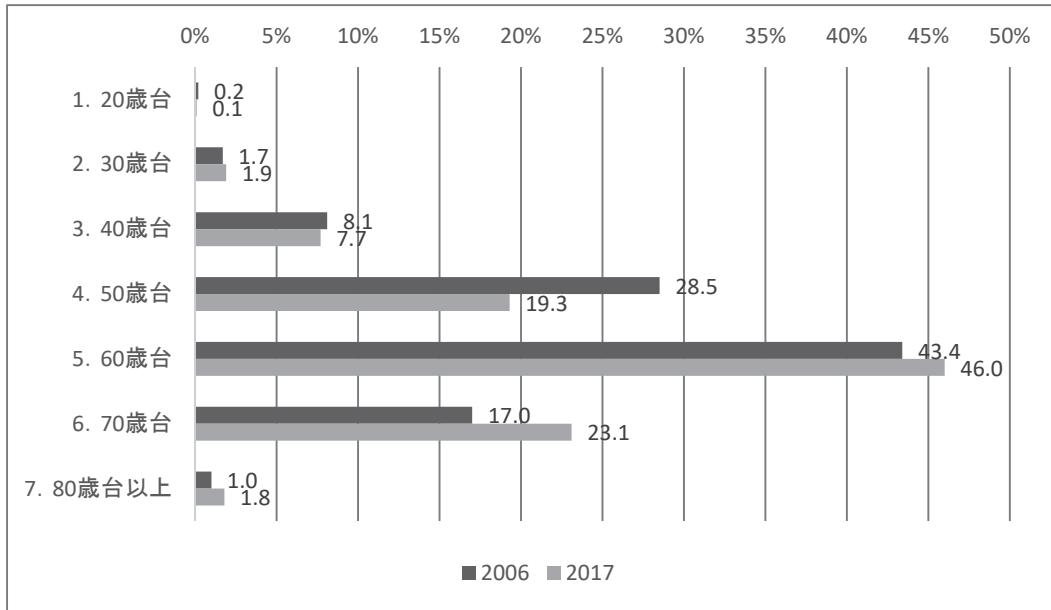


図1 町会長の年齢の比較（上段：前回調査%，下段：今回調査%）

### 3.3 職業

町会長の職業は、前回調査でもっとも多かった自営業・自由業の割合が減っている（図2）。

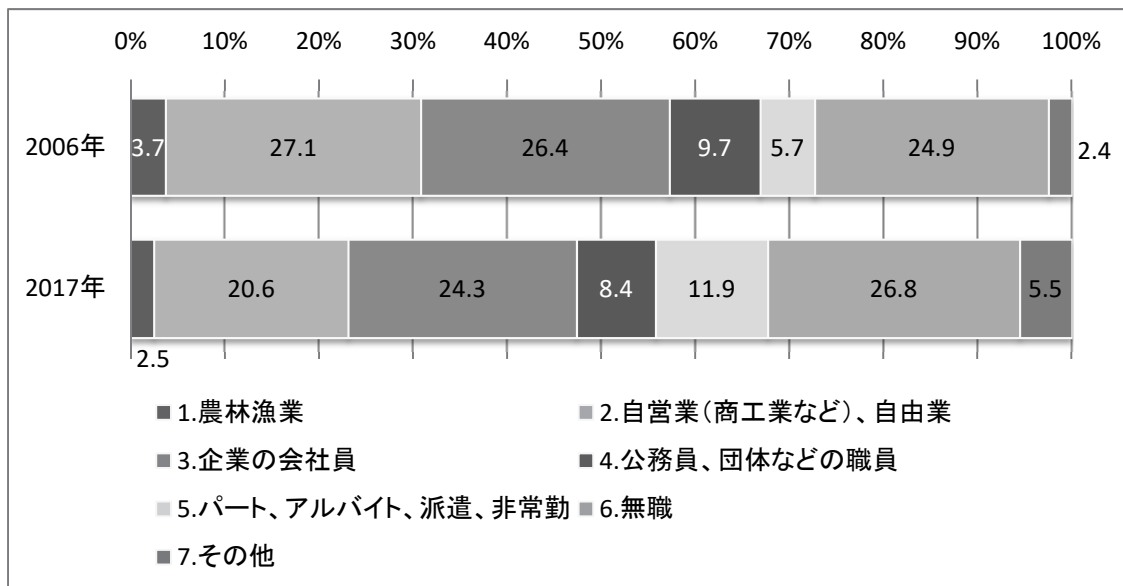


図2 町会長の職業の比較（上段：前回調査%，下段：今回調査%）

### 3.4 居住年数

町会長はある程度は地域の実情を知る人が望ましいと思われるため、居住年数も重要な属性であろう。前回調査と今回調査は同様に51年以上の層がもっとも多い（図3）。

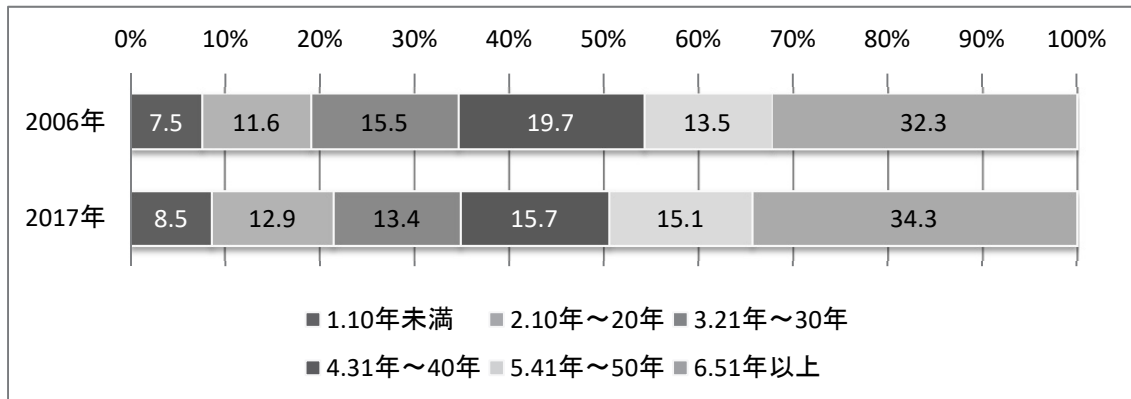


図3 町会長の職業の比較（上段：前回調査%，下段：今回調査%）

### 3.5 町会長の選出方法

町会長の選出方法は、前回調査と今回調査とのあいだにほとんど変化はない。約4割が輪番制となっている（図4）。

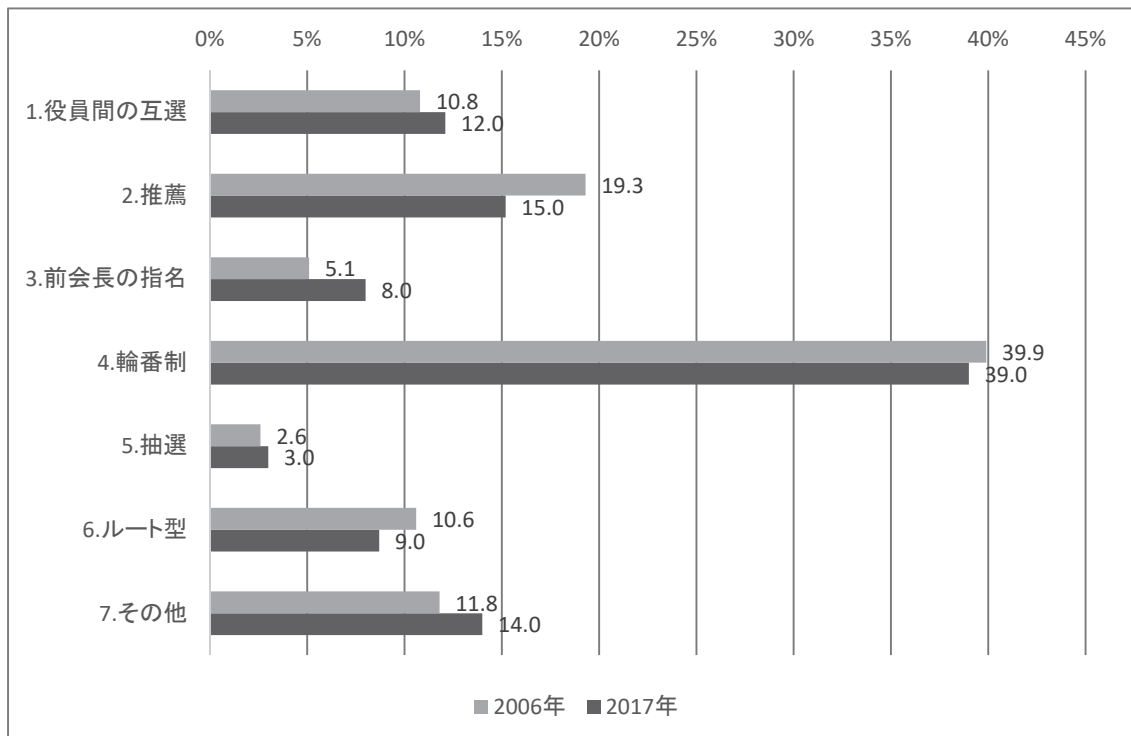


図4 町会長の選出方法の比較（上段：前回調査%，下段：今回調査%）

### 3.6 町会役員の実験

町会の役職（町会長，副会長，会計）に通算でどのくらい従事されているかを尋ねた結果，前回調査では役員を5年以上務めた人が53.9%だったのに対し，今回調査では39.8%であり，役員を長く務める層が減っている（図5）。

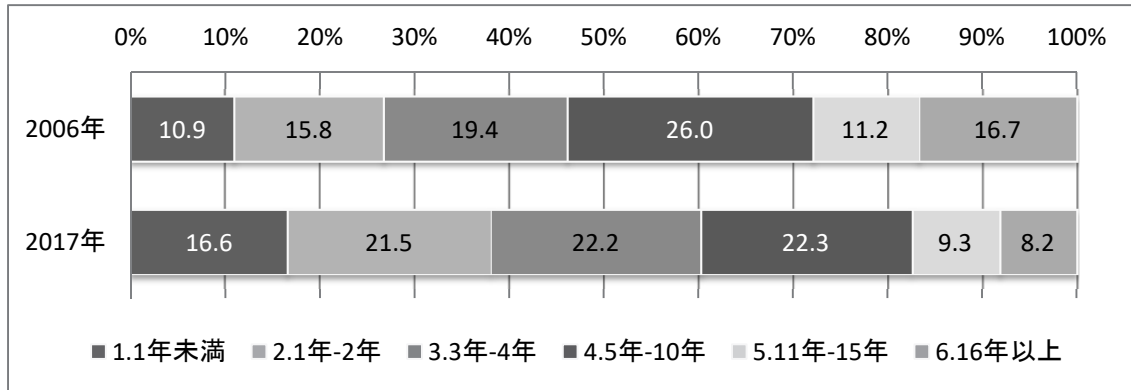


図5 町会役員経験の比較（上段：前回調査%，下段：今回調査%）

## 4 町会長の仕事

町会長の仕事は負担が大きいといわれる。それは，どのくらいの量になるのだろうか。また，そのような仕事に対する評価はどのようなものであろうか。

### 4.1 町会長の仕事量

前回調査では，「あなたは町会の業務で平均して毎月何日くらい働かれますか」という質問文を採用していたが，今回調査では「あなたは町会の業務で平均して週何時間くらい従事されていますか」という質問文を採用したため単純な比較ができない。

今回調査では，回答者1,078人の平均時間は週あたり4.07時間，最小値が0時間，最大値が40時間であった。

### 4.2 町会長の仕事に対する評価

町会長業務に対する評価を，「a. 地域の人々に頼りにされ，やりがいがある仕事である」，「b. 町会長の仕事の負担が大きすぎる」，「c. 町会長をつとめることは名誉なことだ」，「d. 町会長としての責任は重い」，「e. 負担に見合うだけの，なんらかの報酬があるべきだ」の5項目について尋ねた。

その結果を比較した図6によると，前回調査と今回調査ともに，「d. 町会長としての責任は重い」という項目について「1. とてもそう思う」と「2. ややそう思う」と回答した人の合計が最も高く，9割に近い。次に「b. 町会長の仕事の負担が大きすぎる」が7割程度と続く。その一方で，「a. 地域の人々に頼りにされ，やりがいがある仕事である」と思わない人も半数近くおり，「e. 負担に見合うだけの，なんらかの報酬があるべきだ」と考える人は

前回調査より増加している。

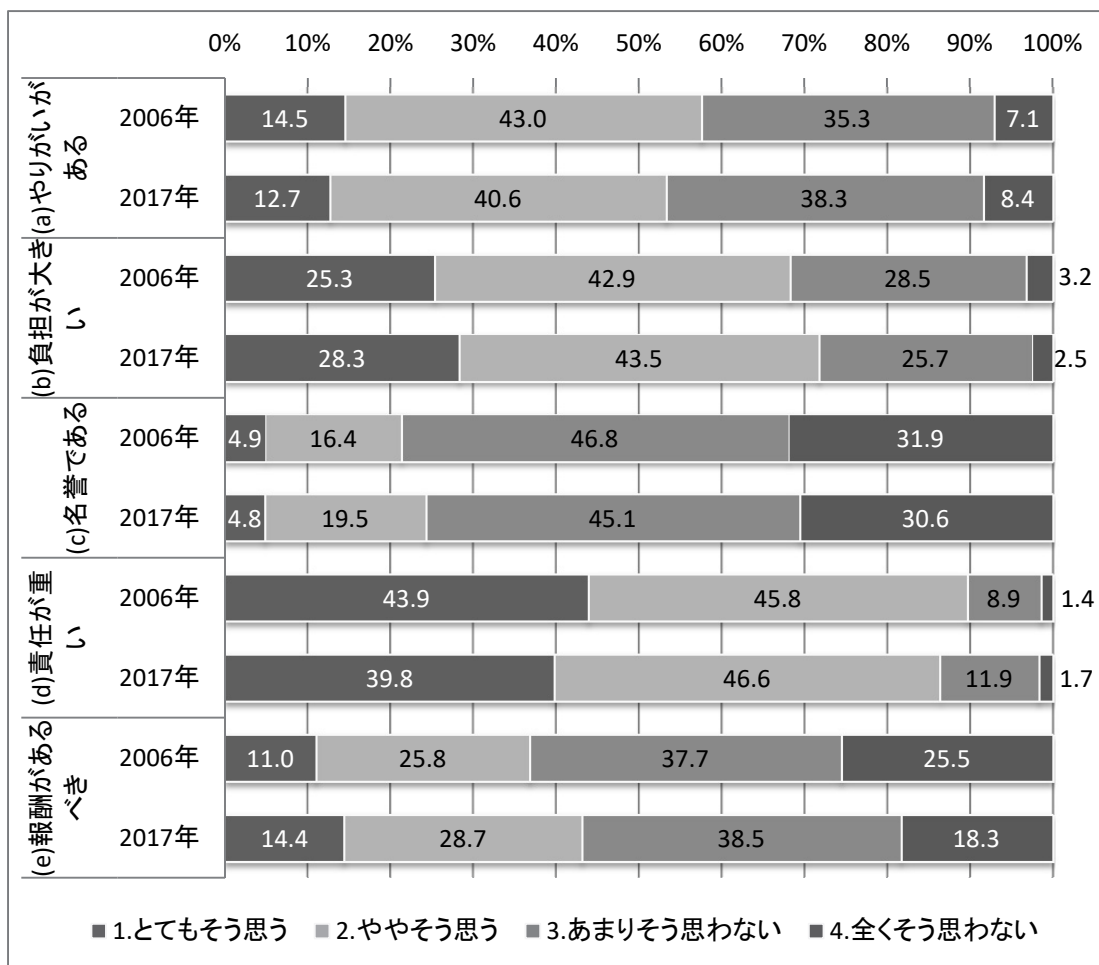


図6 町会長の仕事に対する評価の比較（上段：前回調査%，下段：今回調査%）

#### 4.3 町会長の仕事の負担内容

前回調査にはなかった質問として、町会長として携わる個々の業務のそれぞれについてどの程度負担を感じるかについて今回調査で尋ねている。その結果を示した図7によると、「1. とても負担を感じる」、「2. やや負担を感じる」と回答した人の割合が高かった順に、「(h)地域の苦情処理」64.1%、「(g)施設（ゴミステーション・街路灯など）の管理」61.6%、「(d)祭り・運動会等の行事」59.7%であった。

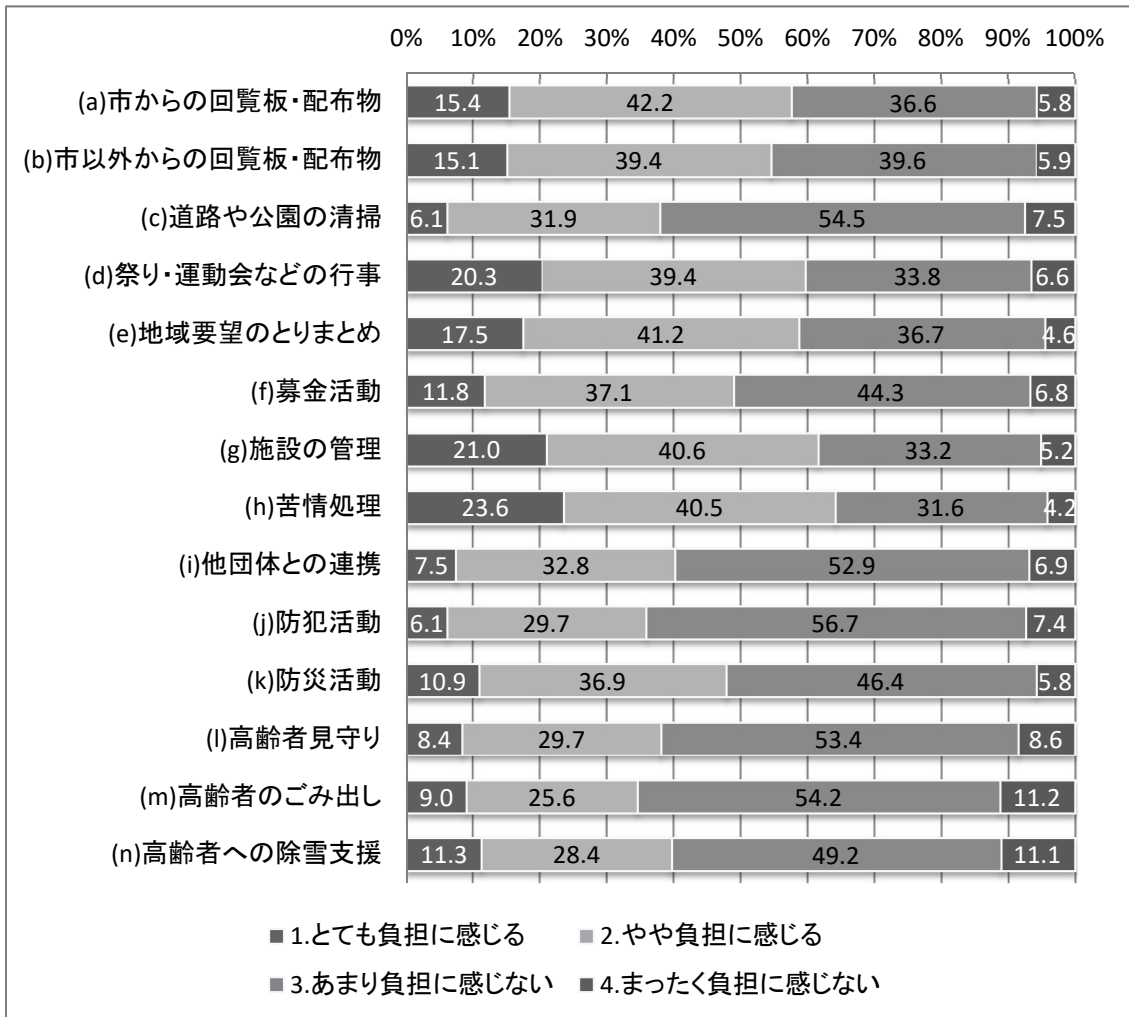


図7 町会長の仕事の負担内容

## 5 おわりに

本稿では、11年間のあいだに町会長の実像がいかに変遷したかを明らかにしてきた。結果を要約すると、町会長の高齢化が進んでいる一方で、通算での町会の役職経験の短い人が増加していた。町会長の仕事は責任と負担が大きいと考えられており、具体的には苦情処理や施設の管理などが負担であり、これらの仕事に週あたり平均で4時間を費やしている。

2018(平成30)年の冬、金沢市は大雪となった。生活道路の除雪が進まず、町会を中心とした共助の力の重要性が再認識された。本調査の回答者であった町会長の多くが、除雪・排雪に関連する業務で、ますます責任と負担を大きく感じたに相違ない。

そのなかで、町会長は「地域の人々に頼りにされ、やりがいがある仕事である」との思いを強めておられることを期待しつつ、その仕事を少しでも軽減するための方策について検討するために、さらに「金沢市町会長アンケート調査」の結果の詳細な分析を進めてゆ

きたい。

[注]

- 1) 全国的には、町内会、町内会長という用語が用いられることが多いが、金沢市では行政も町会、町会長の用語を使用しているため、本稿ではその表現に統一する。

[文献]

田邊浩，2007，「町内会長の現在」金沢市・金沢大学文学部社会学研究室『金沢市におけるコミュニティの実態と市民意識の分析』，87-95.